

令和 5 年 6 月 4 日現在

機関番号：15301

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2022

課題番号：19K13336

研究課題名（和文）近代移行期の西国日本における地方都市と商人・流通業者

研究課題名（英文）The Local city, The Merchant and The distributor in the Modern Transitional Period: A Case of Western Japan

研究代表者

東野 将伸 (HIGASHINO, MASANOBU)

岡山大学・社会文化科学学域・講師

研究者番号：10812349

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、近代移行期における西国日本（特に播磨国・摂津国）の地方都市や商人・流通業者についての史料を分析し、具体的には播磨国西部の豪農堀家の経営・金融活動の特質と領主との関係、摂津国西部の地方都市（主に御影村）における土地売買と土地利用の特質、備中国の廻船業者の活動と人的ネットワーク、の3点について検討した。

これらの分析結果から、制度上の地目（田畑）と異なる宅地利用といった地方都市の内部構造の特質、地方都市の商人・流通業者が商品流通と金融・決済を通じて中央と地方を繋ぐ機能を担っていた点等を具体的に明らかにし、金融史・都市史等複数の分野に関わる知見・論点を提示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近代移行期の地域社会について、中央都市と地方都市の間での金融・決済関係、地域において地方都市と関係を有する豪農・商人・流通業者が担った機能を具体的に明らかにし、地域社会を検討する際に地方都市の位置づけや中央都市との関係、これを媒介する主体の機能を議論に組み込む必要性を提示した点が、本研究の学術的意義である。

本研究の社会的意義として、地域史研究の深化、地方の史料を用いた村・都市研究の可能性の提示、地域における地方都市や商人の機能を解明することで、農村・農業のイメージが強い江戸時代の地域社会像を転換することに寄与する点がある。

研究成果の概要（英文）：In this study, I analyzed historical materials on regional cities, merchants, and distributors in Western Japan (Harima Province and Settsu Province) during the period of transition to the modern era. Specifically, I clarified (1) The characteristics of the management and financial activities of wealthy farmers in the western part of Harima Province and their relationship with their feudal lords, (2) Characteristics of land sales and land use in local cities in the western part of Settsu Province, (3) Activities and human networks of shipping companies in Bicchu.

From these analysis results, I clarified the characteristics of the internal structure of local cities, and the functions of merchants and distributors in local cities to connect the central and rural areas through product distribution, finance, and settlement. I have clarified the specific points, etc., and presented knowledge and issues related to multiple fields such as financial history and urban history.

研究分野：日本近世史

キーワード：日本近世 地方都市 商品流通 金融 流通業者 商人 都市の内部構造 播磨国・摂津国

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

近代移行期日本の地域論・都市論においては多くの研究蓄積がみられる。ただし、日本近世史・近代史の双方において、地方都市やここを拠点とする商人・流通業者の機能をそれぞれの議論に組み込むことはあまり行われておらず、都市と地域とを分けて議論する傾向が強かった。このような研究状況において、中央都市と地方とを媒介する位置にある地方都市や商人・流通業者の分析を行い、その機能を組み込むことで、研究状況の接合・刷新を図る必要があると考えた。

2. 研究の目的

本研究では、近代移行期における西国日本の地方都市や商人・流通業者についての史料を収集し、地方都市の内部構造と商人・流通業者の金融・商品流通機能の変容過程を明らかにする。これにより、日本近世史・近代史双方において分析が手薄であった地方都市や商人・流通業者の機能を地域論・都市論の中に位置づけ直し、両研究動向に新たな展開をもたらすことを企図した。

具体的には、(1)播磨国西部(兵庫県西部)地域の有力農民・米穀商であった堀家(堀謙二家文書)の分析、(2)摂津国西部(兵庫県東部)の地方都市である御影村とその周辺の町・村にかかわる文書群(御影村文書等)の分析、加えて補助的な調査・分析として(3)備中国南部(岡山県南西部)の地方都市(倉敷等)における商人・流通業者の文書群(大橋家文書等)の分析を行い、近代移行期における地方都市の内部構造、および地域・都市間の金融・商品流通関係とその変化を明らかにすることが、本研究の目的であった。

3. 研究の方法

各年度において、(1)史料所蔵施設での史料調査・撮影を行い、(2)それによって得た史料の分析、(3)分析内容の学会報告・論文公表などの成果公開の順序で研究を進めた。

(1)においては、たつの市立龍野歴史文化資料館(堀謙二家文書) 神戸大学大学院文学研究科古文書室(御影村文書) 岡山県立記録資料館、倉敷市歴史資料整備室、岡山大学文学部日本史研究室(日本史学領域)等の施設において、学生アルバイトの協力も得つつ近世・近代の古文書史料(豪農の経営帳簿、地域経済・金融関係史料、土地所持・売買関係史料、書状等)を調査・撮影した。

(2)においては、(1)で収集した古文書史料の写真を確認・調査し、有力者の経営帳簿の数値データ打ち込みと数量分析による豪農(播磨国:堀家)の経営動向と金融活動の特質の解明、地域経済・金融関係史料の数値データの打ち込みと解析・金融契約関係の証書類の文言・内容分析による地方都市内部や都市・地域間での金融関係の特質の解明、土地所持・売買関係史料の数値データの打ち込みと数量分析・領主の動向の分析を通じた地方都市における土地の所持・売買の特質の解明、書状類の翻刻文の作成と内容分析を通じた近世・近代の商人・流通業者の活動の特質の解明などを行った。

(3)においては、主に 播磨国の豪農堀家の金融活動、 摂津国免原郡御影村における土地所持・土地売買の特質、 備中国の廻船業者の経営・流通活動について、(1)(2)での調査・分析をもとに研究成果をまとめ、学会報告を行い、そこでの討論などから得た知見をもとに研究内容の更なる深化を進めた。

4. 研究成果

新型コロナウイルス感染症の流行により、遠隔地への史料調査が困難になったという当初予期していなかった事象があったこと、それに加えて研究内容に適合的な史料の発見などがあったため、本研究においては、当初の計画以上に、2.研究の目的(3):備中国の廻船業者についての研究において大きな進展があり、複数の成果を公表することができた。具体的には、以下の通りである。

(1)東野将伸「史料紹介:備中国小田郡笠岡村浅野家文書の経営・流通関係史料」岡山地方史研究会7月例会、2022年7月

(2)東野将伸「備中国小田郡笠岡村浅野家文書目録・史料紹介 経済・流通・キリスト教(一)」(『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』53、2022年)

(3)東野将伸、渡世理彩「備中国小田郡笠岡村浅野家文書目録・史料紹介 経済・流通・キリスト教(二)」(『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』54、2022年)

また、これ以外の研究項目についても、新型コロナウイルス感染症の流行が落ち着いている時期に調査を進め、学会報告等の成果報告に十分な分析結果を得ることができ、研究の順序に変化はあったものの、ほぼ当初の予定通りの調査・分析を行うことができた。

2. 研究の目的：(1) 播磨国西部（兵庫県西部）地域の有力農民・米穀商であった堀家（堀謙二家文書）の分析については、以下の学会報告を行った。

(1) 東野将伸「近世 近代移行期における豪農の広域金融 播磨国・備前国における動向を事例に 」岡山地方史研究会 12 月例会、2019 年 12 月

(2) 東野将伸「近世後期における豪農の広域金融 播磨国揖東郡日飼村堀家を事例に 」大阪歴史学会近世史部会 2021 年 9 月例会、2021 年 10 月

2. 研究の目的：(2) 摂津国西部（兵庫県東部）の地方都市である御影村とその周辺の町・村にかかわる文書群（御影村文書等）の分析に関する成果として、以下の学会・研究会報告を行った。

(1) 東野将伸「近世日本における地域・都市間の関係をめぐって 経済・金融の観点から 」第 5 回「災害文化と地域社会形成史」研究会、2020 年 5 月

(2) 東野将伸「近世後期～明治初期における土地売買と「屋敷成」把握 摂津国兔原郡御影村を事例に 」岡山地方史研究会 2 月例会、2023 年 2 月

この他にも、2. 研究の目的：(1) に関して、播磨国西部の一部の領主であった一橋家の財政運営について、以下のような成果を公表した。

東野将伸「近世後期における一橋徳川家の「隠居所」財政 寛政一二年財政帳簿の分析を中心に 」(『文化共生学研究』20、2021 年)

また、本研究での知見を活かし、以下の書籍の一部を執筆した。

(1) 岩城卓二他編著『論点・日本史学』(ミネルヴァ書房、2022 年)

(このうち「地方商人の商取引 地方商人はどのようにして取引したのか」を執筆)

(2) 岡山大学文明動態学研究所編『大学的岡山ガイド こだわりの歩き方』(昭和堂、2023 年)

(このうち「江戸時代の備前・備中・美作」を執筆)

以上の他にも、本研究の内容と深く関わる先行研究に関する以下のような書評を公表した

(1) 東野将伸「書評 岩橋勝編著『貨幣の統合と多様性のダイナミズム』」(『社会経済史学』88(3)、2022 年)

(2) 東野将伸「書評 森本幾子著『幕末・明治期の廻船経営と地域市場 阿波国撫養山西家の経営と地域』」(『経営史学』57(4)、2023 年)

など。

これらの書評の公表により、研究状況の整理と今後の課題の提示を行い、そこから得た知見を自身の研究にも活用しつつ、研究を進めた。

以上の多方面での分析・研究の成果により、当初の研究の目的の通り、近代移行期の地域社会について、地方都市内部での社会秩序や経済面での関係（土地売買・金融）の特質（主に 2. 研究の目的(2)）、中央都市と地方都市の間での金融・決済関係（主に 2. 研究の目的(3)）、地域において地方都市と関係を有する豪農（2. 研究の目的(1)）・商人・流通業者（主に 2. 研究の目的(3)）が担った機能を具体的に明らかにした。

この成果に基づき、地域社会を検討する際に、地方都市が果たしていた経済的・政治的機能や地方都市の有力者と中央都市商人との関係などについても重要な分析課題であることを提示し、従来の研究視角や使用史料とは異なる研究アプローチ 例えば地方あるいは都市の史料のみでなく、その双方を用いた分析を行うことなど での研究が今後より必要になる点を示した。

さらに 2. 研究の目的(3) に関しては、明治期を通じた研究の必要性や、経済・金融にとどまらない範囲（情報・思想）での研究も行うことにより、地域社会論、都市史研究、近世 近代移行期研究に対して学問的提起を行うことのできる研究可能性を見出すことができ、研究代表者の今後の重要な研究テーマの 1 つとして、継続して取り組んでいく見込みである。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 東野 将伸	4. 巻 57(4)
2. 論文標題 書評 森本幾子著『幕末・明治期の廻船経営と地域市場 阿波国撫養山西家の経営と地域』	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 経営史学	6. 最初と最後の頁 68-71
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 東野 将伸、渡世 理彩	4. 巻 54
2. 論文標題 備中国小田郡笠岡村浅野家文書目録・史料紹介 経済・流通・キリスト教（二）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 (1)～(23)
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18926/64303	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 東野 将伸	4. 巻 88(3)
2. 論文標題 書評 岩橋勝編著『貨幣の統合と多様性のダイナミズム』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 社会経済史学	6. 最初と最後の頁 67-70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 東野 将伸	4. 巻 53
2. 論文標題 備中国小田郡笠岡村浅野家文書目録・史料紹介 経済・流通・キリスト教（一）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 (1)-(20)
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18926/63397	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 東野 将伸	4. 巻 155
2. 論文標題 書評 今村直樹『近世の地域行財政と明治維新』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 岡山地方史研究	6. 最初と最後の頁 15-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 東野 将伸	4. 巻 412
2. 論文標題 【新刊案内】 渡辺尚志『日本近世村落論』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 地方史研究	6. 最初と最後の頁 127-128
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 東野将伸	4. 巻 20
2. 論文標題 近世後期における一橋徳川家の「隠居所」財政 寛政一二年度財政帳簿の分析を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 文化共生学研究	6. 最初と最後の頁 (71)-(88)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18926/61542	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 東野将伸	4. 巻 854
2. 論文標題 【書評と紹介】 井奥成彦・谷本雅之編『豪農たちの近世・近代：19世紀南山城の社会と経済』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本歴史	6. 最初と最後の頁 96-98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 東野将伸	4. 巻 97
2. 論文標題 【書評】 谷山正道著『民衆運動からみる幕末維新』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 民衆史研究	6. 最初と最後の頁 67-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 東野 将伸
2. 発表標題 近世後期～明治初期における土地売買と「屋敷成」把握 摂津国兔原郡御影村を事例に
3. 学会等名 岡山地方史研究会2月例会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 東野 将伸
2. 発表標題 史料紹介：備中国小田郡笠岡村浅野家文書の経営・流通関係史料
3. 学会等名 岡山地方史研究会7月例会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 東野 将伸
2. 発表標題 近世後期における豪農の広域金融 播磨国揖東郡日飼村堀家を事例に
3. 学会等名 大阪歴史学会近世史部会2021年9月例会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 東野 将伸
2. 発表標題 書評：今村直樹『近世の地域行財政と明治維新』
3. 学会等名 岡山地方史研究会4月例会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 東野将伸
2. 発表標題 近世日本における地域・都市間の関係をめぐって 経済・金融の観点から
3. 学会等名 第5回「災害文化と地域社会形成史」研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 東野将伸
2. 発表標題 近世 近代移行期における豪農の広域金融 播磨国・備前国における動向を事例に
3. 学会等名 岡山地方史研究会12月例会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 岩城 卓二、上島 享、河西 秀哉、塩出 浩之、谷川 穰、告井 幸男	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 388
3. 書名 論点・日本史学	

1. 著者名 岡山大学文明動態学研究所	4. 発行年 2023年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 360
3. 書名 大学的岡山ガイド	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------